

「『こんにちは県議会です』地域住民等との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和3年8月6日（金）午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 県庁議会棟、県内各地（オンラインによる開催）
- 3 参加団体 (1)信州大学雷鳥サークル
(2)安曇野をサポートする会（アズサポ）
(3)ファザーリング・ジャパン信州
(4)福祉大保育園保護者会
(5)（株）ミスズ工業

4 出席議員

議 長	宮本 衡司
副 議 長	清水 純子
広報委員	宮下 克彦、寺沢 功希、清水 正康、和田 明子
会派選出議員	(自由民主党県議団) 竹内 正美 (改革・創造みらい) 花岡 賢一 (県民クラブ・公明) 加藤 康治 (日本共産党県議団) 毛利 栄子

5 意見交換テーマ

「子育て世代の希望が実現する長野県へ ～ポストコロナの少子化対策に向けて～」

6 開催内容

各団体等の取組紹介、グループ毎による意見交換・懇談

7 参加者 33名（議員10名、参加団体等23名）



○開会

(司会：清水副議長)

皆さん、こんにちは。それでは、定刻となりましたので、ただ今から「こんにちは県議会です」を始めたいと思います。私は、本日の司会、進行を務めます、長野県議会副議長、そして広報委員会委員長の清水純子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(清水副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、宮本衡司議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。宮本議長お願いします。

(宮本議長)

皆さん、こんにちは。県議会議長の宮本衡司であります。

本日は、県民の皆様と意見交換を行う『こんにちは県議会です』を開催しましたところ、大変お忙しい中御参加をいただき、誠にありがとうございます。

本来は、私どもが県下各地に伺っての開催でありましたが、今回は、デジタル技術の活用と新型コロナ対策という両面から、オンラインによる開催といたしました。一堂に会す方法にもよい面はありますが、一方で、オンラインは離れた場所でもつながって対話ができますし、移動時間の節約に加えて、人との接触が避けられるなどのメリットがあります。実施方法については、今後も、よりよい方法で実施をしてみたいと思います。

さて、ここで少し時間をいただいて、最近の県議会の主な取組についてお話しをいたします。初めに、7月2日まで開催された6月定例会についてであります。

新型コロナウイルスについては、変異株が急拡大するなど、いまだ先を見通せない状況が続いていますが、この定例会では、知事から、医療提供体制の強化や県内経済の下支え、生活対策など、約260億円の補正予算が提出され、県議会としても、国に対してワクチンの十分な確保・供給など、ワクチン接種の円滑な実施を求めることや、安心な医療提供体制の構築を要請いたしました。

本会議の審議でも、新型コロナに関する議論がありました。今、市町村では徐々に対象を広げてワクチンの接種が進められていますが、今後のワクチン接種が、より円滑に行われるよう、市町村に対し丁寧な支援を求めることや、コロナ禍で不安や困難を抱える女性の状況が浮き彫りになり、女性が社会的に孤立しないよう支援を求める意見が出されました。

経済関係では、コロナ収束後の経済再生に向けた取組を求めることや、来年の善光寺御開帳、諏訪大社御柱祭などの大きなイベントを活用しながら経済再生を図るべきといった意見もあり

ました。

その他、6月定例会の概要は、先日の日曜日、8月1日に新聞折り込みで配布いたしました。また、県議会のホームページにも掲載しましたので、ぜひ御覧いただきたいと思います。

次に、議員からの提案による条例制定の動きについて触れたいと思います。

昨年の9月定例会において、2050年度までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボン達成を目標とした長野県脱炭素社会づくり条例を議員から提案し、全会一致で可決をいたしました。この条例は、ゼロカーボンの年限を都道府県で初めて定めたもので、県民や事業者の省エネルギーや、プラスチックごみ削減につながる製品を選択するエシカル消費に努めることなど、皆さんの日常的な取組についても含まれています。

更に、現在、二つの条例について議会での検討が進められています。

一つは、歯科保健推進条例の改正です。この条例は、制定から10年が経過し、口腔機能の維持が身体の健康にもつながるなど、最近の情勢を踏まえた改正に向けて、検討が進められています。

もう一つは、少子化対策に関する条例の検討です。日本の出生率、つまり1人の女性が生涯に産む子どもの数の平均ですが、注目を集めたのが1990年の「1.57ショック」です。これは、1966年の丙午（ひのえうま）という迷信の影響を受けて、「1.58」という極端に低い数字となりましたが、これをさらに下回った衝撃のことをいいます。国などにおいて、結婚、妊娠、出産、子育てに関する対策が取られ、回復傾向にあるものの、希望する子どもの数には届いていません。

本県では、全国平均は上回っていますが、全国同様の傾向があるため、一人一人の希望がかなえられるよう、実効性ある条例の検討が進められています。

以上、最近の主な取組の紹介といたします。

さて、本日のテーマは、「子育て世代の希望が実現する長野県へ ～ポストコロナの少子化対策に向けて～」であります。

新型コロナウイルスは、結婚、出産、子育てにも大きく影響を及ぼしています。本日は、将来を担う若者として、松本市の信州大学雷鳥サークルさんはじめ、結婚支援の活動をされている安曇野市のアズサポさん、子育て真っただ中の上田市のファザーリング・ジャパン信州さん、諏訪市の福祉大保育園保護者会さん、子育て家庭を支える企業として諏訪市のミスズ工業さんの五つの団体の皆さんに参加いただきましたので、多様な立場からの様々な御意見をお聞きできるものと大変楽しみにしております。

本日お聞きした御意見は、先ほど触れました、現在の検討中の少子化に関する条例をはじめ、県政に反映できるように取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、本日の意見交換が活発に行われ、実り多きものになること、そして、皆さんにとって、議会が少しでも身近な存在となることを期待申し上げ、挨拶いたします。

ありがとうございました。

○出席議員自己紹介

(清水副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。では順次、私から指名をいたしますのでお願いいたします。

はじめに、広報委員会から副委員長の宮下克彦議員お願いいたします。

(宮下議員)

副委員長を務めさせていただいております宮下克彦です。諏訪市の選出でございます。皆さん、よろしくをお願いいたします。

(清水副議長)

続いて、寺沢功希議員お願いします。

(寺沢議員)

安曇野市選出の寺沢功希です。本日は、どうぞよろしくをお願いいたします。

(清水副議長)

清水正康議員お願いいたします。

(清水議員)

上伊那郡選出の清水正康です。よろしくをお願いいたします。

(清水副議長)

和田明子議員お願いします。

(和田議員)

皆さん、こんにちは。長野市・上水内郡選出の和田明子です。よろしく申し上げます。

(清水副議長)

続いて会派選出議員から、竹内正美議員お願いします。

(竹内議員)

皆さん、こんにちは。千曲市・埴科郡選出の竹内正美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(清水副議長)

花岡賢一議員をお願いします。

(花岡議員)

佐久市・北佐久郡選出の花岡賢一です。よろしくお願いいたします。

(清水副議長)

加藤康治議員をお願いします。

(加藤議員)

長野市・上水内郡選出の加藤康治と申します。今日は、よろしくお願いいたします。

(清水副議長)

毛利栄子議員をお願いします。

(毛利議員)

こんにちは。岡谷市・下諏訪町選出の毛利栄子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

(清水副議長)

参加議員の紹介は以上であります。

今回参加いただいた団体の皆様につきましては、恐れ入りますが、お手元の名簿の配付により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。

本日の進め方でありますけれども、事前にお送りをした次第のとおり、各団体の皆さんの活動をご紹介いただいて、そのあと、5つのグループに分かれて意見交換を行います。グループ分けは、なるべく異なる団体との組み合わせとなるようにいたしました。

また、本日、実施をした内容については、録音、録画させていただいて、概要を文書で取りまとめ、写真等とともに後日、県議会のホームページに掲載をするなど議会広報に活用させていただきますので、ご承知おきをよろしくお願いいたします。

なお、今回はオンラインということで、万全の準備はしておりますけれども、場合によって、

ご不便をおかけすることが有るかもしれませんが、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

○取組紹介

(清水副議長)

それでは、本日ご参加いただきました各団体の代表の方から、取組の概要や活動について発表をお願いしたいと思います。

進行の都合上、1団体、大変申し訳ありませんが3分以内でお願いをしたいと思います。なお、事前にお送りした参考資料も、適宜ご覧をいただければと思います。

初めに、地域交流や地域活動に積極的に関わっている信州大学の雷鳥サークル、Aさんお願いします。

(信州大学雷鳥サークル)

こんにちは。信州大学雷鳥サークルです。私たちは、今年の4月から設立して活動しています。

雷鳥サークルは、社会に出たときに、最初から地域貢献などができ、会社の戦力になるような人材を育てたいと思って立ち上げました。そして、SDGsという2025年までに目標としている持続可能な社会のための開発を担うためには、我々大学生が必要ではないかと思い、まず、そのSDGsを学んでいこうという趣旨で立ち上げました。

長野県全域で活動するので、よかったら、お声がけしていただけたらうれしいです。よろしくお願いします。

(清水副議長)

ありがとうございました。

次に、地域活性化を目指して婚活等のイベントを実施する安曇野をサポートする会（アズサポ）のDさんお願いいたします。

(安曇野をサポートする会)

こんにちは。アズサポ代表のDです。お世話になります。

我々は、平成24年に前身の団体ですが、地域活性のイベントを、本日一緒のJさんと立ち上げて、自己財源でやっています。その一環で、最初、ボランティア募集をしたりしたところ集まらなく、婚活をやってボランティアをしてもらったのが平成25年です。そこで成婚者が2人出て、その後、なかなか辞められず、8年ぐらい経ちます。

今、コロナ禍ですが、現在は安曇野市さんと、昨年までは池田町さんと手を組んで婚活を開催しております。延べ参加人数が、今現在、1,200名ぐらいで、分かっている限りの成婚者は、

13組との報告を受けております。カップル率等は40%ぐらいになっています。

コロナ禍ですが、県外から女性がお嫁さんに来たいということで、必ず、参加される方がいらっしゃると思いますので、移住促進なども行っております。

何卒、今日はよろしく申し上げます。

(清水副議長)

ありがとうございました。

次に、パパの育児・家事の参画を推進しているファザーリング・ジャパン信州、Eさんお願いいたします。

(ファザーリング・ジャパン信州)

ファザーリング・ジャパン信州のEと申します。今日はよろしくようお願いいたします。

私どもファザーリング・ジャパン信州は、信州のパパをもっと笑顔にというような合い言葉で活動しております。いわゆる父親の育児、あるいは家事をもっと推進できるように、各種イベント、後援会、いろいろな催物を開催しております。

こういう活動をやっていると、やればやるほど、父親がまったく家事や育児に参画していないことが見受けられたり、一方で、母親、ママたちの悲鳴が聞こえてきたりしています。どうしたら、もう少し変えられるのだろうか日々考えながら、いろいろ活動しております。

今日は、各団体の方、いろいろな立場が違うと思いますが、一緒に少子化対策というテーマに沿って、意見交換ができたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(清水副議長)

ありがとうございました。

次に、保育園の保護者相互の交流などを図っている福祉大保育園保護者会のGさんお願いいたします。

(福祉大保育園保護者会)

初めまして。長野県福祉大保育実習室の今年度保護者会長を務めておりますGと申します。

保護者会の活動としまして、保護者会活動が円滑に進むことや、園児・保護者と先生方との連携を図るなどを中心に、1年間通して行っております。

また、保護者主催の催物が、毎年、行われていますが、コロナウイルス感染症が拡大している中で、各地のお祭りが中止となっていますので、今年は、子どもたちに少しでも夏祭りというものを体験させてあげたいという思いから、縁日のようなものを保護者で製作し、7月9日に開催しました。

最後に、園児の減少という問題がありまして、福祉大保育園のPR活動を行おうという取組

に、宮下県議にも御協力いただいております。福祉大学校がよりよい方向へ向かうように、地域の方や同窓会と一緒に勉強会等にも参加させていただいております。

本日は、皆さんと会議の中で、いろいろ勉強をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

(清水副議長)

ありがとうございました。

最後に、県の職場いきいきアドバンスカンパニー認証企業の株式会社ミスズ工業、Hさんよろしくお願いいたします。

(株式会社ミスズ工業)

皆さん、こんにちは。ミスズ工業のHと申します。よろしくお願いいたします。

事前配付させていただいている資料を基に、簡単に会社の説明をさせていただければと思います。

まず、会社の概況ですが、創業おおむね56年ほどたっており、諏訪市のほうに本社工場、箕輪のほうに箕輪工場があります。他に、岩手県にも工場、大阪に営業所がございます。

従業員は約240名で、県内に従事している従業員は、140名ほどになっております。

事業は三つございます。一つは部品組立て事業で、腕時計のプレス部品、金属加工部品です。あと、液晶テレビに使われる液晶のドライバー、要は色味を出すような半導体部品を製造している事業と、3年ほど前からRS事業、ロボティクスソリューション事業というものを営んでおります。

象徴する認定に関して紹介をさせていただきます。

先ほどお話がございましたが、長野県独自で長野県職場いきいきアドバンスカンパニーという認証を受けている会社でございます。あと、厚労省のほうからくるみんなマーク、こちらは、子育てサポート企業に与えられる認定制度になっております。他に、若者の雇用に関して積極的に取り組んでいる会社にも与えられるユースエールというもの、健康経営優良法人、こちらは健康経営を実施している会社にも与えられる認定、国からはこの大きな三つの認定を受けております。

今後は、女性活躍推進法に基づいて、えるぼしマークの認定等も目指していきたいと考えているところです。

本日の意見交換に即した取組に関して、簡単に御説明をさせていただきます。

まず1点目が、育児休業の取得ということで、女子社員に関しては、以前から育児休業に関しては積極的に取得をしていただいているところです。昨年度から男子社員に関しても育児休業を取得していただけるような取組をしており、今までに4名ほど取得をしていただいております。

次に、仕事と家庭の両立支援ということで、3点ほど挙げさせていただきました。

一つは、育児短時間勤務、こちら、法的には3歳まで短時間が取ればいいですが、ミスズ工業の場合は、小学校に入学するまで短時間勤務を行うことができます。

二つ目は、子の看護休暇。こちらは、昨年までは小学校に入学するまで看護休暇を取れる制度ですが、今年からは、中学校に入学するまで取れるような仕組みに変えております。

最後に、出産祝い金の新設ということで、今年度から祝い金の支給をするようになっております。

最後に、ワーク・ライフ・バランスの向上について、大きな取組が二つあります。残業時間の削減、有給休暇の取得で、この二つが各種認定制度のいろんなベースとして取組を行っています。以上が、ミスズ工業の象徴的な取組になっております。

本日は、4名ほど参加をさせていただいております。子育て・少子化対策のみならず、今日の副題には、コロナ禍におけるといったタイトルもついておりますので、何かしら参考にできればうれしいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(清水副議長)

ありがとうございました。

○グループディスカッション

(清水副議長)

続いて、意見交換に入りたいと思います。テーマは「子育て世代の希望が実現する長野県へ～ポストコロナの少子化対策に向けて～」です。皆さんの取組における課題であったり、少子化対策にはどんな取り組みが求められるのか、など少子化対策に関するご意見などについて、5つのグループに分かれて、意見交換をお願いいたします。

進行は各グループの広報委員が行いますので、45分間での進行に、ご協力をお願いしたいと思います。

(グループディスカッション開始)

○意見交換感想発表

(清水副議長)

皆さん、ありがとうございました。グループディスカッション、大変お疲れ様でした。それでは、45分間の各グループディスカッションを終えて、グループを代表して、広報委員の皆様から意見交換の内容や、そして感想の発表をお願いしたいと思います。

まず、Aグループの寺沢委員をお願いします。

(寺沢委員)

Aグループでは、まさに今、子育て中のお母さん方に行政に期待すること、そしてまた、社会に期待することをお聞きしました。皆さんからは、企業に様々な選択ができるように、その努力義務を課していただいて、働き方が自由に選べる環境にしていただきたい。

男性が、子育てに協力することはもちろんですが、男性の考え方として、女性が社会に進出し、活躍することに理解を持つ、そんな社会になってほしいということでした。

そして、どうしても共働きで、女性が働いていて育休を取ると、キャリアの中断となってしまう。このことは、何とかしていかなければいけないという御意見をいただきました。この意見交換で、現在の子育て中の課題、不安等をお聞きする中で、これから結婚、子育てをする大学生の2人が、結婚、子育てに対して不安が大きくなってしまいました。その後、社会も変わってきているし、様々なフォローがあるという御意見を聞いて、少しその不安も減ったのではないかと思います。

ぜひ、未来を担う若い世代の不安が少しでも減って、子育てに不安の残らない社会になってほしいと思いますし、また、行政もそれに向けて、頑張っていかなければいけないと思いました。そんな意見交換になりました。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございます。

それでは、次に、Bグループについて私、清水から御報告をさせていただきます。

Bグループは、信大の大学生お二人、パパの育児グループのファザーリング・ジャパン信州のお二人、そして、職場いきいきアドバンスカンパニーの企業の代表のミスズ工業さんお一人というグループで、竹内議員が入っていただいて懇談をさせていただきました。

まずは、長野県の20代の女性たちが、県外にたくさん流出をし、そして戻ってこない。これが大きな課題の一つであろうということで、このテーマで話をしていきました。

信大の学生の方からは、やはりドラマ等の影響で、おしゃれなオフィスへの憧れもあったり、また、自分自身が働きたいということに対して、そこにつながる企業、自分の求める企業がなかなか県内にそろっていない、そして、周知がされていないという御意見がありました。

そして、選ばれる長野県になるためには、時代の流れとともに男性の育児参加は必要であるということで、育休を取ったお二人の方々から、お話をお聞きしました。お二人とも、環境が整う中で、あまり苦労もなく、恵まれた環境の中で育休を取得できたとのことでした。ただ、知り合いの方については、上司の圧力がかかり、なかなか育休が取りにくい環境であるというお話もありました。

課題としては、現在の自分の仕事を、育休の間どのように継続をしていくかということですが、その反面、リモートワークがコロナ禍によって普及をし、育休を取りやすい環境が整ってきているとも言えます。

そして、信大の学生の方からは、若者は夫婦で家事をする、育児をするのはもう当たり前な時代に入ってきていて、固定観念を取り払って、世代が代わっているというお話もお聞きしました。若い世代の育児参加は当たり前、この思いを潰さないでもらいたいというお話もありました。ぜひ、成功事例を県内にしっかりとアピールをしていただくことが、何より大事ではないかというお話がありました。

そして、県への要望として、県知事に、まずは、県職員に対して100%育休取得宣言を大々的に行っていただきたい。トップの思いによって大きく動くことができる、トップの思いが大事です。

そして、最後には、キャリア教育について、更に力を入れていかななくてはいけないということで、働く女性が活躍をし、そして、子育て・家庭もしっかり両立をしていく、このロールモデルも多くの皆さんにお伝えをすることが大事であります。そして、市町村をまたいで活躍する女性のいるこの姿を、職場体験の中で見せていくということも大事だと思います。その上で、自分自身の人生設計の中で、いつごろ家庭を持ち、自分自身がキャリアアップを継続し、向上させながら子どもも育てる、このようなイメージを若いうちに持つことが大事である、このようなお話もあった次第であります。

少し、ざっくりとですが、全体像を御報告させていただきました。

続いて、Cグループの宮下委員お願いします。

(宮下委員)

それでは、Cグループの意見交換の様子を報告させていただきます。

Cグループは、信大の雷鳥サークルのお二人、それからファザーリング・ジャパン信州の一人、それからアズサポの婚活を進めていらっしゃるお一人、それに花岡議員と私と合わせて6名で議論させていただきました。

全体としましては、今のコロナ禍、相談する窓口がなく、核家族ではとても子育てが厳しい状況です。一世代だけで子育てするのではなく、もっと世代の広がり地域の広がりがあるというご意見がありました。ぜひ、子育てをコミュニティーで協力できるような体制を作っていってもらえればということです。

特に、そのコミュニティーを作っていく上で大事なものは、引っ張っていくリーダーであり、全国的に見れば、明石市の市長さんはリーダーとして頑張っておられ、非常に明るい感じでコミュニティー作りができていると思います。ぜひ、子どもは、社会で育てる必要があるという御意見がありました。

それに併せて、経済面での支援をぜひ、お願いしたいですが、行政の支援は、やっているということですが、本当に届いているのか、マッチしているのかなどしっかり見ていかないといけないです。また、企業では、ミスズ工業さんが頑張っていますが、即効性のある経済支援ということを、ぜひ、考えていただければと思います。ありがとうございました。

(清水副議長)

続いて、Dグループ、清水正康委員お願いします。

(清水委員)

Dグループは、アズサポのお一人、ファザーリング・ジャパン信州のお一人、そして信大雷鳥サークルのお二人と、私、毛利議員の6人で、意見交換をさせていただきました。

その中で、まず、男性の育児休業についてですが、やはり企業や企業の上司、また、社会の雰囲気などがもっと変わっていかないといけないという話がありました。あと、現実の話として、一定以上の大きな企業はいいですが、小さい企業は、その方が休んでしまうと事業が回らないという現実もあり、そういったところは、難しいのではないかとのお話がありました。それを解決するためには、もっと社会的なものができていかないといけないというお話もありました。

続いて、結婚願望という部分で、信大のお二人に質問がありました。実際、お二人とも自分の夢、やりたい仕事があるので、今は、特に、結婚をしたいという願望はないということですが、我々大人は、少子化を何とかしなくてはいけないというところで、結婚を取り上げて話しますが、やはり、当事者である若い人たちの気持が一番大事ではないか、若い世代の方に大人が、結婚に夢が持てるということをもっとしっかりと見せてあげる必要があるのではないかとのお話がありました。

あと、触れていないグループが多かったですが、最後に、議会の広報についても少しお聞きしました。やはり、なかなか皆さんに見ていただけていないというのが現実で、見ていただいた方からは、やはり、もっとぱっと目につくようなレイアウトや内容に変えていった方がいいのではないかとのお話もいただきました。今後に生かされればと思います。

以上です。

(清水副議長)

それでは最後に、Eグループ、和田委員お願いします。

(和田委員)

Eグループは、ミスズ工業さんのお一人、信大雷鳥サークルのお二人、そして福祉大保育園のお二人、それから加藤議員にも加わっていただきました。

最初に、それぞれの方たちの活動や自己紹介などしていただく中で、最初の取組の発表でもありましたが、ミスズ工業さんが、本当に、子育てサポートや若者雇用、いろいろな取組をしているというお話を聞きまして、グループの中で、このような企業の取組をするきっかけは何だったのかという問いかけがありました。過去に企業の経営が厳しい時代があり、その時に、

これからは、新しい人たちが働きやすい、そして、そういう人たちに選んでもらえる企業になるための御努力をされたというお話がありました。そして、仕事と家庭・子育てを両立させていくためには、やっぱり、企業の支援や環境が整っていることが重要で、子育てを今している保護者会のお二人の方も、子どもさんが未就学児であつたりすれば、今は、働けない状態でも、働く時は、働く環境が整ったところで働きたいというようなお話をされていました。

信大の雷鳥サークルの皆さんも、今、立ち上げたサークルの活動の中で、持続可能なSDGsのことをもっと学び、もっと認知されるような活動をしていこうと、地域の中で、企業やいろいろな活動をしている団体とも、もっと結びついて頑張っていきたいというお話がありました。そういう中で、雷鳥サークルの皆さんは、今は、メンバーが1年生で松本のキャンパスに集中していますが、これから2年生になって、それぞれ県内のいろいろな地域のキャンパスに行つて、そこでまた、いろいろな地域の皆さんや企業や団体とも結びついて、活動が広げられればというお話でした。今日、この意見交換で、他の団体の方とも結びついたのできっかけに、何らかの活動をもう少し具体的に、展開してやられるのだろうと期待が持てました。

県政や議会への要望については、子育てをしている皆さんの保育の要望は、直接的には市町村ということですが、福祉大の保育園の、今、預けている子どもさんが大分減ってきています。これは、諏訪市ではなく、長野県がもっと多くの園児さんを預けていただけるように、県としてPRするべきことであると思ひました。私たちも今まで失念しており、大事なことを教えていただきましたので、確かに県としても、県議会としても取り組んでいこうと思ひます。

ただ、少子化というだけでなく、預かる場所がありながら、そこが認知されていないということは、これも私たちとしても取り組めることであるとお話を聞いていて思つたところです。

初めて、今日、お会いした皆さんでしたが、ざっくばらんにお話ができ、とても有益な時間だったと思ひます。ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。それぞれグループの御報告をいただきました。短い時間でしたが、大変、有意義な時間であつたと思つております。

20分ほど、この後、皆さん全体で懇談の時間があります。各グループのディスカッションを終えて、まだ言い足りないとか、まだ御意見・御要望があるとか、お話をした中で気づいた点とか、ざっくばらんにお話をいただければと思ひます。

キャリアの中断という言葉が最初に出てきました。女性が今、高学歴になり、男性と同様に高い教育を受けています。そして、そういう状況が整つております。女性も男性と同じように高い水準の教育を受け、社会に出て意気揚々と就職をし、そういう中で、自分が持てる力を発揮していきます。この中で、女性が男性と違うのは、どうしても結婚をすれば、そして子育て・出産をすれば、一旦、少し休憩をする、立ち止まるということになり、必然的に女性のほうがそういう機会が多いということです。このような状況の中で、キャリアの中断という言葉

は、私は、とても大事な言葉であると思っております。

これに限ってではないですが、このような観点から、現状であったり意見であったり、皆さんからまだ時間がありますので、御意見いただければと思います。いかがでしょうか。

ファザーリング・ジャパン信州、Eさん、どうぞ。

(ファザーリング・ジャパン信州)

今日は貴重な時間をありがとうございました。

Bグループでは、このような話にも関連したお話があったので、皆さんとも共有した方がいいと思いお話をします。先月ですか、元資生堂の方が、あいとぴあで講演をされた資料を今、見ていますが、女性が経済的に自立でき、キャリア形成が図れる、こういう社会はやはり大事であることを、経済目線で説明をしていただきました。一つは資産の内容なので、正確な金額ではない部分もあると思いますが、同一企業で出産・育児を挟んで生涯働き続けた場合、その女性は2億3,660万円の収入を得るところですが、これが、出産による退職、あと、復職後は、パートで働き続ける場合は、2億円マイナスになってしまうそうです。あるいは、収入としては6割ほど減ってしまうという話がありました。

私も、金額を聞くと、本当に各家庭の家計にも大きな影響はありますし、私も、企業の人事を担当しておりますが、今やもう人手不足で、なかなか採用も難しい時代になってきています。

そういった意味では、先ほどのBグループで、女性の流出問題もありましたが、やはり、男性も女性も働き続ける環境づくりは、長野県の経済にも影響を与えるのではないかと思います。こういう視点は、行政の皆さんにも改めて御認識いただきたいとともに、我々企業も、社員を働きやすく、継続して働ける環境づくりが改めて大事であると思います。

学生さんの視点でも、やはりそういった会社に勤めて、継続して長野県から流出せずに、働き続けられる長野県をみんなで目指すべきではないかと思い、経済面でこのようなセミナーの内容があったものですから、情報共有ということでこのようなお話をさせていただきました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

まだ、時間がありますので、どうぞ皆さん手を挙げていただいて、御発言を願います。どんなことでも構いませんので、せつかくの時間ですから、皆さん積極的に。

ミスズ工業、Iさんお願いします。

(株式会社ミスズ工業)

ミスズ工業のIと申します。本日は、貴重なお時間をありがとうございました。

先ほど、清水副議長からお話があったキャリアの中断に関してですが、女性に関しては育休というタイミングで中断される方は、多いと思いますが、こちらのキャリアの中断に関しては、

男性にもあることだと個人的には思っています。

というのも、学校卒業後の3年以内の離職率に関して言えば、大卒では3割、高卒では4割という統計も出ておりますので、一回、地元から離れるという経験に関しては珍しいことではないと思っています。今のミスズ工業に入社する前は、転職の支援を私はしていましたので、そこでも毎日たくさんの方が転職をしたいということで、一回キャリアを中断して、仕事を辞めて仕事を探しているという状況の方もたくさん見てきました。そういう中で、育児に関して前向きに捉えることができない方というのは、多いと思っております。

ただ、キャリアを中断ということで、マイナスなイメージをどうしても持ってしまうのですが、若い学生たちに少し心の中に留めていただきたいのは、逆に、そのキャリアの中断をすることで、自分を見詰め直すきっかけにもなったり、育児をすることにより、自分の人生にも、仕事にもプラスにつながるようなことはあるので、そういう意味でも、もっと結婚、子どもを持つことのすばらしさというのを持っていたいただきたいと思っております。 以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。ほかにどなたかどうぞ。

ファザーリング・ジャパン信州、Fさん、どうぞ。

(ファザーリング・ジャパン信州)

ありがとうございます。今、話題に上がっていますキャリアの中断という言葉ですが、仕事を一旦離れているという言い方が多分望ましくて、もっと言えば、寝ているのもキャリア、生きていること全てキャリアなので、子育てをしているという経験も当然、仕事には役に立ちます。例えば、職場で自分が子育てをしている経験があれば、同じ仲間がそこに悩んでいれば、そこに寄り添ってあげられるし、そこで、その人の存在とはとても価値のあるものになっていくと僕は思います。

では、そうはいっても、職場を離れなくてはならなくなったときに、例えば、女性が産休・育休が取れず会社を辞めてしまったときに、もう一度、会社で働こうとした場合、やはり、学び直しの機会を企業側が、上手に提供できる状態をつくっていくことが大事である。そのためには、企業さんだけに頑張ってくださいということではなく、行政からの支援もきちんとしていくというのが、多分循環としてもいいですし、未来を見据えても、とても大事であると思います。今、目の前で産休・育休が取れなくて仕事を辞めてしまって、働くに困っている人たちがたくさんいるということを、私たちは、きちんとかみしめなくてはいけなく、今すぐにでも、そういうフォロー、つまり行政主導でやっていくということは、とても大事なことであると思います。

(清水副議長)

ありがとうございます。

私は、以前、女性たちとお話する機会があり、このキャリアの継続という観点から、先ほどお話があったとおり、例えば家事、育児というどうしても集中しなくてはいけない期間を過ごした後に、再び戻ってくる女性のキャリアは、相当バージョンアップしているという話がありました。子どもを育てながらミルクをやって、後ろでは鍋をつけて、旦那さんの洗濯をし、夜の御飯も支度をする、同時に三つのこと、四つのことをこなしながら生活をする、女性のこの経験も、例えば職場に帰ったときに、必ず役に立ちます。家事・育児は、自分のキャリアのバージョンアップにつながるという価値観を、社会がきちんと分かり、評価をしてくれる。このことが大変大事なんだというお話を、女性たちのグループとの懇談の中でいただきました。今、まさにそのようなお話をいただく中で、キャリアの継続という観点からも、大変幅が広い社会の受け止めも必要であることがよく分かりました。

まだ、少し、時間があります。

ミスズ工業のHさん、企業の立場からどうぞ。

(株式会社ミスズ工業)

すみません。

話の流れが、とてもいい感じになってきていると感じています。

キャリアの中断というのは、私は二つあると思っています。物理的キャリアの中断と、心理的キャリアの中断。まさに、子育てしなければいけないというときに、会社を離れる、仕事から一時期離れるのは物理的中断だと思いますが、深刻なのは、やはり、心理的中断です。物理的中断は、子どもと接することで、先ほどお話にありましたとおり、逆の学びも生じたりするので、それは、多分人生という意味では、非常に意味があることであると思いますし、ただ、所得面での課題は、冒頭にもお話がありましたけれども、必ずしも一致しないところは出ようかと思っています。

一番心配なのは、やはり心理的中断です。つまり、子育てに疲れ切ってしまった、あるいはそこで、ノイローゼになるみたいなことになってしまう。そういう状況で必要なのは、やはり行政の手助けだと思うので、ぜひ、行政がしっかりお力添えをいただいたらいいのではないかと感じました。

以上です。

(清水副議長)

ありがとうございます。

若い信大の学生、女性はどうでしょうか。信大の雷鳥の女性の皆さん、もし、一言ありましたら。

長野県も、少子化対策を本格的に取り組んでいかななくてはならない時期になっております。

条例の検討もされている中で、若い人たちの観点を、世代交代も含めて、その感覚をしっかりと入れながら対策を進めていくということが、まさに大事であろうと思っております。

信大の雷鳥サークルの女性の皆さん、どうでしょうか。

Bさん、どうですか。

(信州大学雷鳥サークル)

先ほど、Aグループの中でキャリアの中断の話が出て、子育てに不安を持ってはいましたが、まだ、仕事なども経験していなく、知らないことが多いです。キャリア、仕事を一旦離れても、子育ての経験がまた、復帰したときに仕事に生かせるという考え方がとてもいいと思いました。前向きにいろいろ捉えていこうと思いました。

(清水副議長)

ありがとうございます。

他の信大の女性はいかがですか。今の時代の感覚で、こんなことをやったらいいのではなど付け加えがあれば。また、県に要望することでも構いません。どうですか。

では、信州大学雷鳥サークル、Aさん、締めてください。

(信州大学雷鳥サークル)

こんにちは。お願いします。

私は、子育てについては、本当に両親に聞くことしか機会はなく、そのような手厚いサポートがあるということも、今回、意見交換会をするまで知りませんでした。相談先がある、支援があることは、知らない学生が多いので、学生と手を組んで発信をしたら、とても、親しみやすくなると思ったりしました。

あと、Eグループで言っていた、県が、率先して子育てができる環境を整えるというのは、とてもいいと思いました。県職員になりたいという人も増えるのではないかと思ったりしました。

今日は、ありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

高校生とか大学生ぐらいになると、自分の将来を見据えて、先ほども言いましたが、自分の人生設計の中で、これからどんな職種、どんなところで仕事がしたいのか、自分自身がどうやって輝きながら生活を送るのか、その就職先をどうやって見つけるのかなど、色々考える時期です。タイミング的には、自分の人生を考える大変大事な時期ではないかと思えます。

今、どのような支援があって、自分自身の人生設計の中で産休とか育休とか、これから男性

の産休もどんどん進めていく法律が制定をされましたが、そのような時に、何が用意をされていて、自分自身がそこから何をチョイスできるのかという材料を、皆さんにしっかりと分かっていたことを、県がやらなくてはいけない立場であると、今、感じたところでもあります。

そのほか、あともう一人ぐらい。ぜひ、お声を出していただければありがたいと思いますが。信州大学雷鳥サークルのCさん、どうぞ。

(信州大学雷鳥サークル)

先ほどまでずっと、少子化、少子化と、どんどん子どもが減っていっている話が多かったと思いますが、昨日、母から一通のメールが送られてきました。長野県の佐久穂町にある茂来学園という私立の小学校が、生徒の76%が移住者になっているそうです。これは、自分が考察するに、これまでは、大家族3世代にわたって、教育とか子育てを支援してきたところでしたが、核家族になって、都内に行って、その後、共働きなどを通して、子どもの教育には結局、長野に引っ越したほうが良いと思う人、教育県と呼ばれている長野に引っ越すことにメリットを感じている人が、多いのだと少し思いました。

ただ、ここが私立なので、一概に長野県という言い方はよくないですが、こういったところをもっとアピールしたり、この学校のことを長野県立や公立の学校がもっと学んで、県議会がアピールできれば、長野県内で子どもを産まなくても、県外の子たちをもっと連れてくることのできるのではないかと思います。

以上です。

(清水副議長)

素晴らしいことです。

今、まさに教育は、住まいを選ぶ、生活を選ぶのに大変、比重の大きい観点になっております。長野県は、まさにこの自然と多様な学びをしっかりと用意することによって、たくさんの方々が、長野県を選んでいただいています。ここで子育てをすることへのつなぎをしっかりとしていくことも、大切な大きな取組ではないかと思っております。その素材は、そろっておりますので、県議会としてもしっかりと、皆さんと議論を重ねて取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

あと、もう一人いけそうです。どうですか。何でもいいです。

もう一人何か言っていただければありがたいと思います。大丈夫ですか。

では、議員さんから、最後、女性の代表で竹内議員どうですか。締めのお言葉をお願いします。

(竹内議員)

ありがとうございます。

今日は、大変気づきが多く、若い方からは、とても新鮮な意見をいただけたと思っております。

最後、キャリアの話になりましたが、私は、キャリアコンサルタントなので、非常に興味を持って聞いていました。女性であるということが、今後は、キャリアデザインの上で強みになってくると思っています。先ほども言ったキャリアの中断というのは、むしろ中断して違う経験をしたからこそ、心のひだとか、そういった厚みみたいなものが増えると思っています。

私も、2人の子どもを子育てしながら、また、介護もしながら、転職もしながら、全てが糧になっていますので、あまりずっと同じところにいることがベストだというわけではなく、いろんな経験が、全て糧になると思っていますので、ぜひ、そのプロセスを楽しんでいただきたいと思いました。女性も男性もぜひ、頑張っていたきたいと思っています。

今日はありがとうございました。

(清水副議長)

ありがとうございました。

大変に充実した皆さんとの懇談、意見交換ができました。参考になることもたくさんありました。気づきもありました。できればもう1時間しゃべっていたいという思いで時間が来ました。大変に皆様、今日は、お仕事等も含めて、時間の調整をしていただきながら、ここに参加をいただいたということでもあります。大変に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

ほかにも御発言があろうかと思いますが、時間の都合もありますので、ここで懇談を切らせていただきたいと思っています。

それでは、最後に、宮本議長から皆様に御挨拶を申し上げます。

宮本議長、お願いいたします。

○議長所感

(宮本議長)

それでは一言御挨拶、御礼を申し上げます。

本日は大変限られた時間の中で、大変熱心な意見交換、御意見、御提言をいただいたことに感謝申し上げます。

各界各層の皆さんから大変貴重な御意見をいただきました。これは、皆さん方の積極的な活動、実情に合わせた継続した取組によるものと思っています。

私の参加したAグループでは、例えば信大の雷鳥サークルの若い方は、将来、教師になるには、結婚は、仕事に集中できなくなるというような、不安を持たれておりました。それに対して、企業や保護者会の方から、そんなことないよと、結婚はすばらしいんだよと、若いお二人に、お三方から貴重なアドバイスをいただきました。

今日の各グループの意見は、仕事と家庭の両立などに、どう支援していくのかに尽きると思います。私どものグループでは、企業や行政などが、子育て支援の制度を設けたら、その利用

を義務付けるような社会になればよいという話も出ました。

また、男性の育児参加については、Bグループからも、夫婦で育児することが当たり前の世の中になって、知事をトップに、職員や県民に対して、協力して家庭を守っていくということを率先して実施してほしいという意見もいただきました。やはり、若い人たちが、結婚を諦めたりすることや結婚は苦勞が多いという風潮にならないことが重要です。

少子化対策は、社会やコミュニティーの中での、お互いの理解も必要です。幅広い年齢層、様々な立場の方々が関係しますので、幅広い皆様方の御意見をいただきながら実現していくべきだと痛感しました。

本日いただいた貴重な御意見をしっかり受け止めまして、今後の議会活動に生かしながら、テーマにもある「子育て世代の希望が実現する長野県」とするため、議会としてもより一層努力しなければならないと思いました。

また、アズサポさんから、顔の見える関係が、活発な活動につながるという話がありましたが、私たちも、県民の皆さんに身近に開かれた県議会を目指して、県民の皆さんと顔の見える関係をつくる活動を、これからも実践をしていきたいと思えます。

最後に、新型コロナはゼロにならなくてもいずれ収束していくものと考えます。そのときに一番危惧されるのは、人と人との絆が薄れているのではないか、ということです。人と近づけない、長時間の話ができない、大勢集まることができない、もっとみんなの意見を聞きたいのに、直接会って話ができない。こういうことが常態化したときに、将来どういう社会構造になっていくのか、ということが心配です。

今が正念場です。様々な課題がありますが、私たち議会も、皆さん方の意見を聞きながら、一つ一つ粘り強く課題解決に向けて進めていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

○閉会

(清水副議長)

宮本議長、ありがとうございました。

以上をもちまして、「こんにちは県議会です」を終了いたします。参加者の皆さん、事前の準備からそして本日まで、誠にありがとうございました。

また、オンラインでの開催ということで、大変ご不便な点もあったかと思えますが、ご協力ありがとうございました。

なお、参加団体の皆様には、アンケートにご協力をいただきたいと思います。後日、事務局からメールでお送りいたしますので、ご回答をお願いしたいと思います。今日、話せなかったこと、今日、終わって考えることを含めて、そこにびっしりと書いていただければありがたいと思っております。

本日は、お疲れさまでした。本当にありがとうございました。以上で、終わりにしたいと思います。

います。